報恩謝徳

うしろから追はるゝやうな師走哉

正岡子規

月めくりのカレンダーも残すところ1枚になりました。晦日（みそか）の大掃除を思うと気が重くなる子どものころを思い出します。

「箒（ほうき）」の語源は、祖先を祭った廟（びょう）をはらい清める道具の「帚（そう）」のことです。

これを「手」にすると掃除の「掃」の字になります。箒の由来を知ると、落ち葉を掃き集める箒の動きも何だか神々しく見えてきます。

銀杏（いちょう）や楠の落ち葉を毎日掃き集めてくれている人がいます。おかげさまで、その道はいつもきれいで気持ちよく通ることができます。

「皆さんが気持ちよく通っていただくように…。」との言葉が深く心に浸みました。

明治のころ日本で教師をしていたウィリアム・ディクソンという人が人力車について語った記録が残されています。

「車夫が坂を懸命に登っていると、もう一人が駆けつけて後ろから押してくれます。見知らぬ車夫同士でも助け合う光景をしばしば目にしました。ある時、宣教師が車夫にうやうやしく声を掛けられ、家まで送ってもらいました。お金を払おうとすると、車夫は『お気になさらず』と受け取りませんでした。友達がこの宣教師に病気を治療してもらったことがあり、それでささやかなお礼をしたかったと述べて立ち去りました。云々」

この中でディクソンは、日本での体験をもとに日本人の「善徳と品性」をたたえています。当時の暮らしは貧しかったはずですが、名もない車夫が示した心意気は、今の時代から見ればきらりとした光を放つかのようです。

「見知らぬ人を手助けする」「お金のことは考えずに礼を示す」「家の前の道路をきれいにする」等々、徳と品性が忘れかけられている昨今、その光景はまぶしく映ります。

さて、「ALWAYS　三丁目の夕日」という映画があります。明日への夢に向かって生きている三丁目の人々と、東京タワーやオート三輪、家に初めてやってきた冷蔵庫と白黒テレビなど、映像に描かれたモノや風景が時代を映し出しながら、仲むつまじく助け合う家族や地域を舞台に生きる下町の人情が描かれています。

「50年後だって夕日はいつもきれいだよ」少年の叫んだせりふです。

夕日が変わらないように、車夫や三丁目の人が持っていた豊かな心も持ち続けたいと思います。

指宿市長　豊留悦男